

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	195900022		
法人名	株式会社 サンシャイン		
事業所名	グループホーム 紅葉の里		
所在地	夕張市紅葉山235番地11		
自己評価作成日	平成31年2月28日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195900022-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195900022-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成31年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活の維持が難しくなってきた利用者様が多いです。この様な状況下ではありますが、今後もその人らしい生活を自分で選択し自分の力を維持できるように 職員は、できないことに対して支援することで安心且つ快適でゆったりとした暮らしの場の提供を目指していきます。(ご本人やご家族様の意向に沿った支援がなかなかできない状況です。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム紅葉の里」はJR新夕張駅から徒歩圏内に位置し、静かな住宅地にある1ユニットの事業所である。新築平屋建ての屋内は清潔で、居間の大きな窓から夕張の山々を眺めて四季を楽しむことができる。暖かい時期にはウッドデッキでお茶をして外気浴を楽しみ、通りを行き来する住民と挨拶を交わしている。近隣に商店や身近に学校などもない地域事情もあるが、事業所の夏祭りには市の職員や家族の参加を得て交流を楽しんでいる。利用者は駅近くの道の駅「夕張メロード」でアイスクリームを食べたり、季節の花見や紅葉見学をして住民と触れ合っている。事業所内では夜間や緊急時に対応が可能な協力医の往診を中心に健康を管理し家族からよく対応してくれるので安心との言葉も得られている。身体拘束廃止委員会に職員も参加し研修も兼ねて学び、拘束のないケアを行い優しく丁寧に対応している。管理者は計画作成担当者とともに、職員が業務に自主的に関わられるように配慮している。職場の自由な雰囲気は利用者があるままに楽しく暮らせる場づくりにもなっている。サービスでは食の楽しみを中心に、献立に季節料理や行事食を組み込んで豊かな食事を提供している。特に入浴や排泄の場面で自立の維持に力を入れている。利用者の自由な暮らしを大切に職員は日々笑顔で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えるところに掲示しているが、振り返ることが少なく実践に繋がっていないといえない。	事業所理念を廊下に掲示し、パンフレットには「地域とともに」を追記して周知している。職員は利用者が喜びと自信が持てるように日々実践している。今後も理念を意識して共有できるように具体的な方法で確認の機会を考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や地域の方々との交流が思うようできていない。今後の課題となっている。町内会には加入している。	事業所の夏祭りには市の担当者や家族の参加を得て食事やビンゴなどをして交流している。町内会行事や地域事情などの環境要因で住民との交流は限られているが、暖かい時期には通りを行き来する住民とベランダで挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、6回の開催である。会議では、事業所からの報告事項が主となっている。意見・助言があればそれを反映させ、サービス向上に努めている。	会議には数名の町内会役員や行政担当者の参加を得て、インフルエンザについて、外部評価への理解、昨年の地震対応などを報告し消防署員からアドバイスも得ている。今年度の会議では家族の参加があまり得られていない。	会議案内に主となるテーマを記載して全家族にも送付し、参加につながるよう期待したい。また参加できない家族と事前に話し合い、テーマなどの意見を引き出しながら会議に反映できるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは、入所見学・新規受け入れ等連絡を密にしている。必要に応じて相談・情報交換等している。親切丁寧に応じていただいている。	昨年、地震の際に市の担当者から利用者の状況確認で電話や来訪を得ている。入居に関し地域包括支援センター職員に相談することもある。また入居時には毎月のように来訪する生活保護担当者に状態を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行われていません。日中は、非常時以外玄関の施錠はせず 過ごして頂いています。	身体拘束等の適正化指針をもとに、委員会に職員も参加し研修も兼ねて3か月ごとに開催している。資料を活用し身体拘束の具体的な禁止行為や不適切なケアを学び、拘束をしないケアを行うとともに、馴れ合いの言葉遣いに注意し丁寧な対応を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自分たちの介護や支援を行っている事をお互いにまた、虐待ではないか、見過ごされていないか、チェックし注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に、訪問して頂き、不安や疑問点等を話して頂き説明しております。契約時には、時間をかけ説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、何でも話して頂けるような雰囲気作りを普段からしております。不満や苦情が言いにくいのか少ない。	家族の来訪時に状態を報告する中でケアについて話し合い意見を聞いているが特になく、何かあれば個人記録に記載している。昨年末から各利用者の通信を3か月ごとに発行し暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提言を発現しやすい雰囲気を作り、だされた意見は、極力反映できるよう努めております。申し送り書等を活用している。	当日の勤務者で申し送り時や、他の時間帯に主にケアの対応を話し合い、「業務日誌」などの閲覧で共有している。管理者はケアの相談に乗ったり、職員間で勤務の交代を話し合う協力関係を側面から支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社とのミーティングを開催された。横・縦の繋がりを作る工夫がなされている。週1で部長の訪問があるので問題等があれば対応して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したいが、職員確保等でなかなか研修に参加できないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は、あまりないのが実情で、できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分かはわかりませんが、一人ひとりが安心できる関係づくりの為に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係づくりHPあ、できていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や関係機関と相談しながら本人が安心して利用できるような対応している。早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たず、お互いに共同しながら和やかな生活ができるように声掛けしている。本人と一緒に家事等を行いながら、職員が学んだり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人ひとりの様子を文書や電話、訪問時に伝えることで家族との協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人は、数回来て頂いてはいる。努めてはいるが情報が不十分で継続されていないことがある。	友人の来訪時に居室でゆっくり過ごせるように配慮している。家族とお墓参り、外食、買い物や映画、温泉に行く方もいる。家族の支援で読書を楽しむ方や職員と道の駅に好きなアイスクリームを食べに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合った者同士で過ごす場面を作るなど職員が調整役を努めているが、孤立した場面も見られることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありません。今後機会があれば必要に応じて行きたいと思えます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の話を聞くようにし、思いを把握しながら本人の希望に沿ったケアができるように努めています。	関心のあるトランプやキャップ合わせ遊びが楽しめるように提供している。会話の中で嗜好や趣味なども聞いているが情報が記録として活かされていない面も見られる。	課題分析(アセスメント)概要の下段に項目を作り、会話などで得た暮らしの習慣、趣味、嗜好などを記入し、介護計画につなげることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の話し、本人の話しから把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の過ごし方等を記録し、職員間で共有し把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画を作成している。日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。細かい見直し等が不十分である。	計画作成担当者を中心に、申し送りの情報や個人記録を参考にモニタリングを行い、6か月ごとに介護計画を作成している。今後も介護計画を意識して日々の記録を行い、サービス実施のほか、変化も記入して見直しに活かす方法を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、食事・水分・排泄の身体的状況、暮らしの様子が記載されている。職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに生かしているが、記録が簡素化しすぎて情報が不十分なこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況に合わせて、その時その時に必要な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市職員・消防・生活保護職員・居宅介護支援事業所職員等と協力しながら、指導等を受け支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療(Dr)及び訪問歯科診療(Dr)と相談しながら、病状や健康の管理をしている。	家庭医として協力医の訪問診療を中心に、専門的な他科受診が必要な時は診療情報提供書とともに各医療機関の主治医と連携している。受診内容は個人ごとのファイルで経過を共有している。	

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療(Dr)に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、支援に関する情報を医療機関に提供している。家族とも情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『看取り』については、ご家族様に意向を伺い同意を得て終末支援に関する覚書当を今後作成を検討中である。	利用開始時に口頭で重度化対応を説明し、看取りは行っていない旨も伝えているが、今回家族の意向で可能な限り対応し看取りの事例もある。重度化で医療行為など対応が難しい場合は、家族と相談し病院や施設との連携で移行支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	周知しているつもりですが、咄嗟の時に対応できるよう、定期的な訓練が求められていると思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っており、災害時の避難に備えております。地域住民の方々との関係が希薄なので不安があります。	消防署立ち会いで6月に日中を想定した避難訓練を実施しているが、住民の参加が得られていない。3月に夜間を想定した訓練を予定している。冬期も含め備蓄品は整備している。今後は職員の救急救命訓練の受講を計画的に進める意向である。	次回の避難訓練に住民の参加も得て行うことを期待したい。また各災害時の対応マニュアルを整備するとともに、地震を想定し利用者ごとにケア場面の対応を話し合い、地震マニュアルに追記して定期的に確認できるよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーに配慮した支援ができるように努めている。誘導の言葉かけには、本人を傷つけない様につとめている。	利用者の呼びかけは苗字に「さん」づけとし、職員の言葉遣いで気になる点があれば指導している。申し送りは利用者のいない時間に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向が示せるよう本人に合わせた言葉かけを心掛けて愛煙しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。本人の思いを把握し、その人なりの体調に配慮しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、外出着に着替えている。いつも同じ服を着て今う利用者様には新しい服を着る様促すなど、少しでもおしゃれをして頂いている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き入れている。職員も同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	本部による献立をもとに彩りのよい食事が提供されている。利用者は食器拭きを手伝い、職員も一緒に同じ食事をとっている。お祭りやクリスマス、誕生日には特別なメニューを用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、記録している。食事は、バランスを考えて作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時は、訪問歯科医師に相談しながら支援をしている。毎食後、自力または、介助を受け全員が口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に合わせて、さりげなく誘導してトイレで排泄できるよう支援している。	個人記録と排便表により個々の排泄パターンを把握している。自力でトイレに行ける方がほとんどで、夜間は2名のみ、ベッド上でパッド交換を行っている。誘導の際は羞恥心に配慮するように指導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表もあり、水分チェック表にて水分摂取量に気をつけている。運動等は、検討しなければならない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制。時間帯は、午後からになるが、早く入りたい人、遅い入浴を希望する人を把握し声掛けで対応している。	各利用者が、概ね午後の時間帯で週2回程度の入浴を行っている。入浴を嫌がる方は現在はおらず、なるべく自分で体や髪を洗ってもらい、自立につなげている。好みの湯加減を調整し、入浴時は職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの睡眠パターンを把握し、一日の生活リズム作りを通じた安眠策をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務室で保管。服用時に手渡ししている。飲み込み等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮できるように、できそうな事ややりたい事をして頂いている。感謝の言葉を伝えるようにしている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、出かける機会を作ることにはできませんが、主にご家族様と一緒に外出しています。桜、紅葉見学等へは、外出していますが、次年度は、もう少し外出できるよう努力をしていきたい。	暖かい時期は周辺を散歩したり、ウッドデッキで日光浴をしている。家族と一緒に外食や外泊に出かける方もいる。外出行事は花見や紅葉見物、ドライブなどがあるが、さらに充実させたい意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、少額のお金を持っている利用者もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話をかけています。小包や手紙が届いた時には、報告の電話を掛けることを勧めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間等は、家庭的な雰囲気を感有しています。また、季節感も感じられる工夫もしています。陽射しが眩しいと感じたときには、カーテンを閉めるなどの配慮を行っています。	共用空間は窓が大きくて明るく、窓から周囲の自然豊かな風景を眺められる。居間のゆったりとしたソファで寛ぐことができる。トイレや浴室も使いやすく清潔に保たれている。遊び道具や観葉植物があり、家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや食卓椅子等、気の合った方と過ごしたり、一人ひとり好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置いたりしています。またホーム内で完成したジグソーパズルなどの作品も居室内に飾っている入居者の方もいらっしゃいます。	室内に備え付けの家庭的なベッドとクローゼットがあり、入口に見やすい表札を掲げている。テレビや戸棚、仏壇など個々に馴染みの家具を持ち込み、壁には写真やカレンダーなどを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・浴室・廊下の要所に、手すりを付け一人でも安全にあるけるようにしている。台所は、対面キッチンで下膳ができる。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 紅葉の里

作成日：平成 31年 3月 28日

市町村受理日：平成 31年 3月 29日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議案内にテーマを記載して送付し、全家族にも送付し、参加につながるよう期待したい。また参加できない家族と事前に話し合い、テーマなどの意見を引き出しながら会議に反映できるよう期待したい。	次年度より実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内状送付時にテーマ等を記載する。</li> <li>・参加できないご家族様の意見等を活用していく。</li> </ul>	12か月
2	23	課題分析(アセスメント)下段に項目を作り、会議などで得た暮らしの習慣、趣味、嗜好などを記入し、介護計画に繋げることを期待したい。	次年度より実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護計画の見直し時に記載する。</li> </ul>	12か月
3	35	次回の避難訓練に住民の参加を得て行うことを期待したい。また、各災害時の対応マニュアルを整備するとともに、地震を想定し利用者ごとにケア場面での対応を話し合い地震マニュアルに追記して定期的に確認できるよう期待したい。	次年度より実施したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社と協議して整備する。</li> <li>・職員間で話し合い確認する。</li> </ul>	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。